

## 第3回 美浜町小中一貫校「学校づくりワークショップ」 記録

2023年12月21日 木曜日 19時～21時

### 1 開会行事（学校教育課長）

### 2 町長あいさつ（町長）

- ・今日は大学と小中一貫校との連携というテーマで話し合ってください。
- ・大学でやることのメリットや魅力というものがあると思っている。
- ・これからは、どうやってよい学校をつくっていかうかと皆さんが真剣に話し合っていたことをもとに、結果的によかったと思ってもらえる学校をつくっていくことが私たちの仕事だと思う。本日も様々なご意見をよろしくお願いします。

### 3 ワークショップの説明（名古屋市立大学 教授 鈴木賢一 氏）

- ・前回のワークショップの内容確認。
- ・大学と小中一貫校の連携における「美浜町のまちづくりの観点」「子どもたちの教育上期待する効果」「大学施設の活用」などについて、町長・教育長・大学関係者へのインタビュー

鈴木：日本福祉大学が美浜町にもたらしてきたものは何だと思うか？

町長：一番は人口が増えたこと。町の賑わいにつながっている。労働力にもなってもらっている。経済力にも影響を与えてもらっている。シンクタンクの役割も担ってもらっている。

鈴木：日福の敷地内への建設を選ぶにあたり、大学とのつながりについてはどのように考えているのか。

町長：本来は皆さんに選んでいただきたかった。皆さんの選んだ場所に従うつもりではいたが、個人的な意見をとられれば、日福のところがいいと思っていた。大学と連携する小中一貫校は全国にないと思う。私立学校の敷地内に公立の小中学校をつくることもおそらく全国で初めてのこと。学生の減少、児童生徒数の減少による統廃合が進んでいる中で、互いに手を組んで新たな教育をしていくことは魅力的だと思っている。単なる統廃合ではなく、美浜町の魅力を利用したよい教育を行っていくことが日福の中ならできると思う。

鈴木：日福に小中一貫校を作ることが、将来のまちづくりにどうつながっていくと思うか。

町長：陸上競技場を核としたスポーツによるまちづくり。小中高大一体的な教育による発展。福祉についても専門的な分野から協力してもらえる。

鈴木：複数ある学校が一つになることが教育上、どのようなメリットになると考えるか。

教育長：小学校1年生から中学校3年生が同じ敷地の中で教育を受けることとなる。先生

も同じ敷地の中にいるので義務教育 9 年間を見通した系統的な教育活動がしやすくなると思う。例えば、美浜町には音吉、野間大坊、野間埼灯台など他地域に誇れるものがあるので、ふるさと学習などを行えたらと思っている。また豊かな自然もある。子どもたちに体験活動などを通して学習させることもできると思う。その中で地域の方の力を借りることもできると思っている。美浜町の良さを知っていく中で、次のステップとして美浜町の良さを発信する活動もできると思っている。最終的には、将来の美浜町のことを考えた教育活動を進めていけるのではないかとと思っている。

鈴木：小学生と中学生が一緒になることのメリットについてはどのように考えているか。

教育長：同じ敷地で小学校 1 年生から中学校 3 年生までが一緒に過ごすという経験は教員出身だが自分自身にもない。しかし、小中一貫校を 4 校ほど視察に行った中で、すべての視察先で先生方が言われたのは「人の良さがわかる」ということ。例えば、中学校 3 年生の子が小学校 1 年生の子の手を引いて登校する姿や遊ぶ場所では大きい子が小さい子の面倒を見る姿など、ほほえましい光景を見られることや、逆に小学生が中学生の姿を見て憧れをもつ姿も見られること。子どもたちの成長につながることを期待したいと思っている。

鈴木：小中一貫に併せて、高校・大学ともつながるが、教育上、何が期待できるか。

教育長：高校も含め、現在も少しずつ連携している。例えばパラリンピック教育については大学の先生に支援してもらいすべての小中学校で実施している。教職を目指す大学 2 年生が学校に入り、手助けしてくれている。敷地の中に小中一貫校があれば、先生も学生も歩いてくることができる。このような活動が今以上に多くできる可能性がある。高校についても和太鼓部による小学生への指導など連携している。引き続き連携できれば、小中一貫校の特色の一つにもなることが期待できる。

鈴木：大学関係者にも今日の会に参加してもらっている。大学からの見方として、大学の中に小中一貫校ができることに対して、どのような効果がありそうと考えているか。

大学関係者：大学というと敷地やキャンパス、そこに通う学生をイメージされるが、大学は教育と研究をする機関である。大学には様々な教育プログラムがある。例えば、教職を目指す学生も学んでいるが、これまではその都度、学校に出向きながら学ばせてもらっていたが、敷地内にあればすぐに教育実践を行い、学校へもフィードバックができるのではないかとと思う。私立大学の敷地内に公立の小中一貫校ができる取り組みは全国初のことだが、これだけでも十分にインパクトあることであり、大学としても研究のテーマになりうると思う。町づくりの変化や小中学生や高校生、大学生の成長の様子などをはかり、全国的に PR することで、美浜町のブランド力も大きく向上するのではないかと期待している。大学にとっても効果あることだが、美浜町にとっても大きな影響のあることだと思う。

鈴木：大学の施設を小中学生が使っていただくことが想定されるが、現時点での可能性をお聞きしたい。

大学関係者：小中一貫校の校舎は整備されることとなると思うが、温水プールなどは冬でも使えるのではないかと考えている。図書館やパソコンルームなどもある。小中学生だけでなく、その保護者にも活用していただけるような仕組みも作っていただけたらと考えている。ただし、学生も含めみんなで使用していくものなので制約も生まれる。この点についてはルールを決めていきながら、あるものは活用してもらえればと考えている。

・本日の流れ

- ① 自己紹介
- ② グループワーク 1 小中学生と大学生とのつながり
- ③ グループワーク 2 美浜町と日本福祉大学とのつながり
- ④ 話し合ったことの共有 1グループ3分

#### 4 ワークショップ

- ① 小中学生と大学生とのつながり
  - a 小中学生から見て、大学生とのつながりに期待できること
  - b 大学生から見て、小中学生とのつながりに期待できること
- ② 美浜町と日本福祉大学とのつながり
  - a 美浜町から見て、日本福祉大学とのつながりに期待できること
  - b 日本福祉大学から見て、美浜町とのつながりに期待できること

#### 5 発表 1グループ3分以内で

・Cグループ

- ① a
  - ・いろいろ遊んでくれる
  - ・経験談を聞くことができる

b

  - ・教育理論の実践の機会が得られる
  - ・社会貢献ができる
  - ・教えることの直接的な体験ができる
- ② a
  - ・美浜町在住者の大学進学率が上がる
  - ・地域社会の活性化や美浜町のPRにつながる

b

  - ・施設の拡充につながる
  - ・学生の就職支援ができる
  - ・実地研究の機会を得られる

・ Aグループ

① a

- ・ 勉強やスポーツを教えてもらえる
- ・ 憧れをもつことのお手本になる
- ・ 親などに相談できないことも相談できる

b

- ・ 教育実習の実践の場になる
- ・ 将来の子育てを考える機会になる
- ・ 小中学生の姿を見ることで、初心に帰ることができる

② a

- ・ 町民の生涯学習・健康づくりにつながる
- ・ 町民の雇用の場になる

b

- ・ 学校という現場での直接的な学習につながる
- ・ 人材の活用につながる

・ Dグループ

① a

- ・ スポーツを教えてもらえたり、体力向上につながったり、遊びが広がったりする
- ・ 楽しく勉強を教えてもらえる
- ・ 大人に相談しにくいことを相談できる

b

- ・ 小さい子どもたちを見て、初心にかえることができるのではないか
- ・ 自分自身を振り返るなど、学生自身の成長につながる
- ・ 子どもの個性や能力を引き出すような研究ができる

② a

- ・ 経済の面で人口増加するなど地域の活性化につながる
- ・ 様々なスキルをもった学生など、人材の美浜町への活用

b

- ・ 他にはない豊かな自然や古き良き風土の活用
- ・ 研究や実践の場としての活用

・ Fグループ

① a

- ・ スポーツや勉強の指導をしてもらえる

- ・世の中の流行りの情報を教えてもらえる

- ・悩みごとの相談ができる

b

- ・限られた期間だけではなく、長期的な視点を持ちながら、必要なタイミングに合わせて教育実習などの活動を行うことができる

- ・子どもたちと接する中で、より品行方正な学生生活を送ることができる

② a

- ・地域の活性化につながる

- ・卒業後も学生が住み続けられれば人口増加につながる

b

- ・研究の場が広がる

- ・実践的な場が広がり、大学のPRにつながる

- ・Bグループ

① a

- ・勉強やスポーツを教えてもらえる

- ・遊び相手になってもらえる

b

- ・小中学生に頼りにされることで自己肯定感の高まりにつながる

- ・実習がすぐにできる。より深い実習につながる

② a

- ・人口が増える

- ・文化・教育の面からの町おこしにつながる

- ・名鉄をはじめとした交通網の発展につながる

b

- ・研究テーマを最大限に活用することで、大学の発展につながる

- ・Eグループ

① a

- ・悩みの相談ができる

- ・一緒に遊んでもらったり、勉強やスポーツを教えてもらったりできる

- ・進路や将来の目標について相談することができる

b

- ・人に教える力の向上

- ・子どもを見ることで癒しを感じたり、自分自身の子ども時代を思い出したりすることで初心に戻ることができる

- ・教育学や心理学の研究を追究できる

② a

- ・人口増や経済効果など活気を取り戻す機会となる
- ・温水プールや体育館などの大学施設の活用が子どもの経験や成長につながる

b

- ・大学の宣伝のチャンスになる

## 6 まとめ・振り返り

### (町長)

- ・大学生が子どもたちの相談相手になってもらえるという点には気づかなかった。よい考え方・意見をもらうことができた
- ・大学生と接することへの心配の声も少なからずあることを改めて確認できた

### (教育長)

- ・町と大学が互いに win win になる連携をしていかなければならないこと、メリットを最大限に活用した学校づくりをしていかなければならないことを改めて感じた
- ・安全への不安の声もあったが、そういったことに視点を当てて具体的な課題を浮き彫りにしながらより良いものにしていきたい

### (大学関係者)

- ・解決すべき課題も多々あると思うが、メリットで課題を解消していくこともできると思う。これからもよろしくお願いします。

### (名古屋市立大学 教授 鈴木賢一 氏)

- ・今日は難しいテーマだったが、このようなテーマのもと議論しているのは美浜町だけでもある
- ・誰も経験したことのないことだが、議論を積み重ねていくことがプラスになっていく
- ・次回が最後のワークショップになる。よろしくお願いします。

## 7 開会行事 (学校教育課長)